

「敷居高い」「浮足立つ」理解3割未満

国語世論調査

就活や婚活など「活動」を略す「〇〇活」との表現が、若者から高齢者までの幅広い世代で浸透していることが25日、文化庁の2019年度国語に関する世論調査で分かった。慣用句を本来の意

慣用句の意味をどう理解しているか		
手をこまねく	何もせずに傍観している ●	37.2%
	準備して待ち構える	47.4
敷居高い	相手に不義理をして行きにくい ●	29.0
	高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい	56.4
浮足立つ	喜びや期待で落ち着かずそわそわしている	60.1
	恐れや不安で落ち着かずそわそわしている ●	26.1
慣用句の意味	今までのことを改め、最初から始めること	新規まき直し ● 42.7
		新規まき返し 44.4
慣用句の使い方	前に負けた相手に勝つこと	雪辱を果たす ● 38.3
		雪辱を晴らす 50.5
	よく分かるように丁寧に説明すること	噛(か)んで含むように 31.9
		噛んで含めるように ● 50.5

【●は本来の意味、使用法】

意味で捉えていたのは、「敷居高い」「浮足立つ」で3割に届かなかった。(32面に関連記事)

活動略す「〇〇活」幅広く浸透

新しい表現を他人が言うのは気になるかを聞いたところ、「〇〇活」は90・6%が「気にならな」と回答。70代以上でも80・0%が許容した。人生の終わりに備える「終活」や、流行のタピオカ飲料を楽しむ「タピ活」など応用範囲が広く、文化庁の担当者は「世代に関係なく、多くの人がなじんでいる」と分析している。

パワハラやセクハラの「〇〇ハラ」は82・5%、クールビズなどの「〇〇ビズ」は87・6%、アラサーのように年齢の前後を意味する「アラ〇」は75・9%が違和感を抱いていなかった。

9月26日土曜日 神戸新聞分

時代とともに言葉も変化（進化？ 退化？）するものですが、例えばユニバーサルデザインなどの生活様式や集団の生活形式とも相まって世代格差なども起こるのでしょう。便利の追求がベストとも言い辛い部分もありますね。